

(課題) 都民や事業者との双方向性を備えた危険情報、注意喚起情報の収集・発信

これまでの取組状況

都の商品等の安全対策事業の流れ

情報収集・情報交換

- ・相談事例・救急搬送事例等の収集
- ・ヒヤリ・ハット経験などの事故事例調査
- ・東京消防庁との意見交換
- ・消費者事故等情報検討会

調査・分析

- ・商品等の安全性調査 (商品テスト等)
- ・商品等安全対策協議会

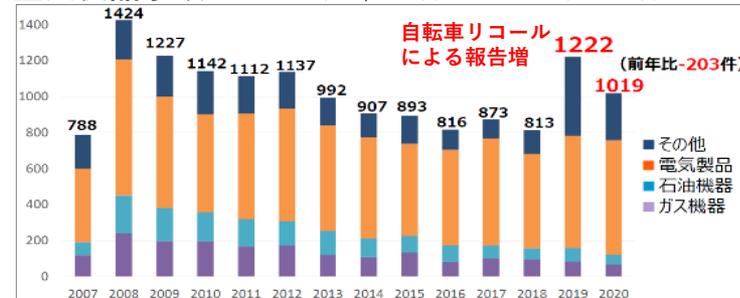
改善要望・情報提供

- ・事業者に対して改善指導等措置
- ・国、業界団体、関係機関等への改善提案や要望
- ・消費者への積極的な注意喚起・情報発信

現状

- ◆ 重大製品事故の件数は減少傾向であり、一部製品の安全対策や消費者の行動に改善があるとみられる。
- ◆ その他の身の回りにある製品の危険や安全対策は、十分に可視化されていない。
- ◆ 製品事故特有の消費者心理が働き、事故情報が埋もれがちで顕在化しない。

重大製品事故* 2008年 1,424件 → 2018年 813件



* 死亡、重傷（治療期間30日以上）、火災（消防が確認したもの）、CO中毒、後遺障害を伴う製品事故

消費者が事故の情報を知った情報源

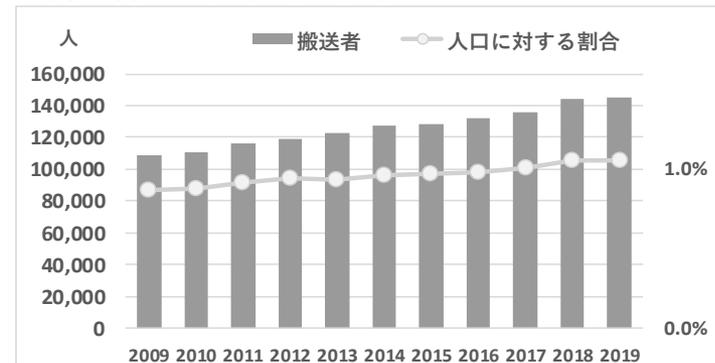
行政の広報紙等	テレビ・ラジオのニュース	インターネットのニュース	新聞・雑誌	家族・友人・知人
1.0~5.6%	17.1~93.3%	14.7~37.5%	5.4~22.1%	4.8~20.1%

消費者の事故時の報告先

報告せず	消費生活センター	販売店・メーカー
65.5~95.5%	0.3~9.2%	0.5~16.0%

(H28-R2年度 商安協アンケートより、複数回答)

都内の日常生活事故の推移



(搬送者：消防庁救急搬送データ、人口：都総務局 東京都の統計より)

製品事故が起こりにくい社会像

- 消費者が、安全に配慮された製品に関心を持つ社会
- 事業者が、安全に配慮された製品づくりを競う社会
- 消費者と事業者が、安全に配慮された製品を通じて繋がる社会

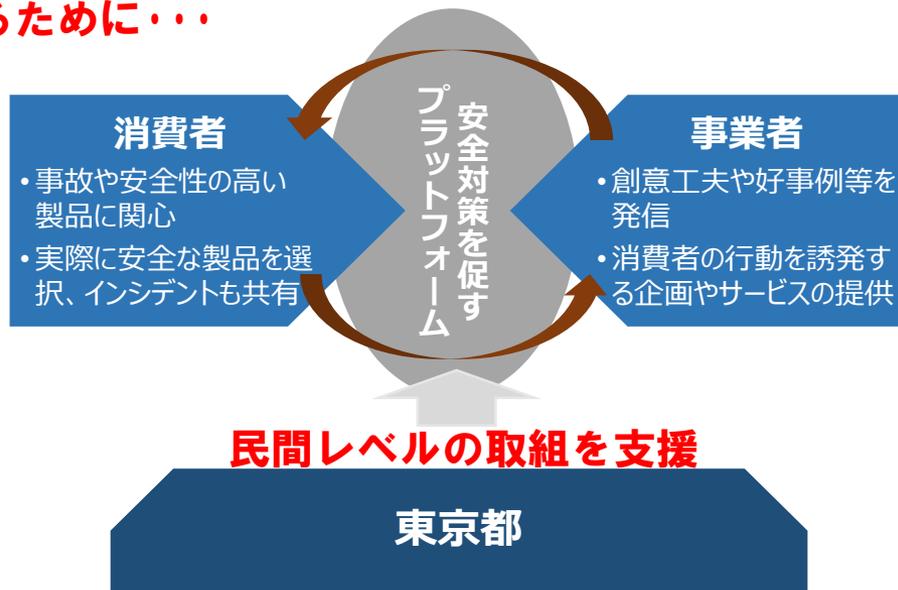
課題

製品に対する安全意識や事故防止の気運を高めるために・・・

□ 身の回りの製品の「安心・安全」に関する消費者の関心の醸成

□ 安全対策が工夫された商品・好事例やインシデントの見える化

□ 安全な製品づくりに先駆的に取り組む事業者の業種や規模を超えた集合



今後の事業への反映・充実

情報収集・情報交換

- 事業者（トップランナー）が集まって、優れた取組等を発信
- 都民からのヒヤリ・ハット経験、事故事例の収集

調査・分析

- 事例数やアクセス数に基づき、都民の関心が高い情報にフォーカス
- 都民の身の回りで起きている事象を把握、調査や商品安全対策に活用

情報提供・注意喚起

- 多様な情報を活用して、事業者や行政機関が調査・改善や注意喚起等を実施

安全意識の向上を促す交流型プラットフォーム構築支援について

都の取組の方向性

1. ユーザビリティ(使用性や満足度)の高いデジタルプラットフォームの整備支援

(目標レベル)

- ・ スマホからでも容易にアクセスできる。
- ・ 事故情報やヒヤリ・ハット情報に触れることができ、事故や画像の投稿もできる。
- ・ 安全な製品や好事例を検索できる。

2. 消費者の興味や関心を引くコンテンツの投入

(目標レベル)

- ・ 親子で遊びながら体験できる。ダウンロードやプリントアウトして利用できる。
- ・ 定期的な入れ替えや更新がなされている。
- ・ 魅力的なアプリとの連携がある。

3. 先駆的な取組を行う事業者(団体)との協働体制の構築

(目標レベル)

- ・ 都民参加型・体験型のイベント等を開催し、啓発ができる。
- ・ 事業者と消費者のリスクコミュニケーションの機会を提供できる。
- ・ 保育所・幼稚園や地域包括支援センター等も巻き込んで、子育てや介護世帯の入れ替わりにも対応できる。

具体的な方策例

例 1 「過去の事故情報の発信と事故事例の収集」

- ・ アンケート調査等で収集した事故情報の活用・発信
- ・ 消費者に対し、効果的な注意喚起等の情報発信の検討・実施
- ・ 事故事例やヒヤリ・ハットの収集(投稿等)



例 2 「デジタル住宅模型」

- ・ バーチャル居住空間で遊びながら室内の危険箇所(リスク)を探索
- ・ 教育用教材としても活用可能
- ・ 保有する事故情報等との関連付け



例 3 「安全を実感する機会」

- ・ 子供や子供のくらしに配慮した商品等の顕彰
- ・ 商品見本市等のイベントの開催
- ・ ワークショップ、情報交換会、安全教育ツアー等、消費者と事業者をつなぐリスクコミュニケーション



長野県佐久市の医師会が立ち上げ、子供の病気とホームケア、病院受診の目安、地域の子育て情報等を提供。**ウェブサイト・アプリ・冊子**で見ることができる。
2018年にキッズデザイン賞受賞

教えて!ドクター
無料アプリ配信中

このサイトについて 教えて!ドクター まほうの子育て こんなときは 便利な帳 コラム お問い合わせ

AndroidはGoogle Playで iPhoneはApp Storeで **教えて!ドクター** 検索

スマートフォンアプリ・「教えて!ドクター」アプリをお使いください!

教えて!ドクター! 予防接種スケジュール 異物誤飲

緊急です! 症状からさがす 病名からさがす

年	月	日
2014年	5月	28日
2015年	6月	29日
2016年	7月	30日
2017年	8月	31日
2018年	9月	1日

スケジュールを見る

冊子「教えて!ドクター〜子どもの病気とおうちケア」の内容を網羅したスマートフォンアプリを開発、Android、iOS各スマートフォン向けに無料配信しています。ご利用料金はかかりません。
緊急時にアプリ内で対処法を検索できるほか、生年月日の入力で**予防接種の時期を知る事ができる**予防接種シミュレーター、救急車を呼ぶべきかどうかを短い時間で判断するためのコンテンツ、実際に救急車を呼んだり、子育て支援センターや自治体の窓口などに電話をかける機能などを搭載しています。

キッズデザイン協議会 子供を守る情報の森プロジェクト（こまもりプロジェクト）

<https://kidsdesign.jp/library/lab0/16#cat02>

KIDS DESIGN キッズデザイン協議会とは 事業活動 お知らせ 活動レポート サービスメニュー ライブラリー

—— 子供を守る情報の森プロジェクト ～情報を隅々まで～

■安心・安全の情報提供を

「子育てに関する安心・安全の適切な情報を、キッズデザイン協議会をハブにして保護者に提供したい」。

「アンパンマン」「ウォーリーを探せ」など子供向け絵本を出版するフレーベル館の金子氏は、同社のノウハウと協議会会員企業の知見を元に子供の安全・安心を守るような絵本を作れないかと考えた。そこで早速、子供の安全・安心に関するモノを調査すると、書籍や紙芝居など、素晴らしいのにあまり知られていないモノが多くあることが分かった。

「せっかく良いものがあるのに、世の中に知られていないのはもったいない。研究会として多くの人に伝えるようなプロジェクトにできれば面白い」と子供を守る情報の森プロジェクトはスタートした。

子供を守る情報の森プロジェクト(こまもりプロジェクト)



事前調査

安全についての情報媒体を収集



- ・過去のアンケート調査や論文
- ・安全に関する書籍や受賞作品
- ・両親学級での安全指導
- ・自治体からの育児ガイドブック

